

## 特別支援教育 コーナー

## 東部教育局主催ワークショップ（特別支援教育） 「将来の自立と社会参加の実現に向けて」

今回のワークショップは、義務教育終了後の生徒の指導・支援の状況を知ることを通して、児童生徒の教育的ニーズや指導目標・指導内容等の確認・見直しを行い、今後の指導・支援につなげることを目的に開催しました。鳥取緑風高校の松森頼子先生、琴の浦高等特別支援学校の渡部真里子先生から、生徒の状況や校内の取組、将来の社会参加の実現に向けて大切にしたいこと等の講義を受け、その後、2グループに分かれて意見交換を行いました。

鳥取緑風高等学校（教育相談部長兼  
松森 頼子先生（特別支援教育コーディネーター）

〔松森先生講義資料より〕

### 高校生になるまでに育てたい3つのこと

- ・ルールが守れること(他人に迷惑をかけない・約束を守る)
- ・ヘルプが出せること  
「わかりません」「失くしました」など  
(助けてもらった体験、大人への信頼感)  
先生にどうしてもらいたいですか?  
(先生にないで言葉にさせる)
- ・自己理解(自分の得意なこと、苦手なこと、対処法がわかる)  
※できれば支援計画を生徒と一緒に作成

### 【最後に】

#### 小中学校での特別支援教育

- ・小中学校までに支援につながらなかった人は、高校でも支援しにくい。
- 授業がわからない → 来なくなる → 在籍6年まで → 退学
- 関係が作れない
- ・支援の開始が早いほど、自己肯定感が育ちやすい。
- 基礎学力の定着 → 45分授業に耐えられる → 単位取得 → 卒業
- 信頼関係の構築
- 学校に行くということは、...
- 寝る→起きる→食生活(生活習慣) → 通学する(体力) → 人と会う → 人の話を聞く(コミュニケーション)
- これらの行動が今後の人生の土台となる



〔松森先生〕

定時制・通信制課程の違いとともに、生徒の様子や支援の状況を丁寧に説明いただきました。校内支援体制や授業支援、就労支援の取組とともに、将来に向けて義務教育段階で身に付けておくことよい事柄を教えてくださいました。

保護者の了解のもと、個別の教育支援計画を本人と一緒に作成しています。自分のことをよく知り、対処法が分かることが大切です。

自分の考えを伝えることに自信がもてない、働くことへの意欲がもてないなどの様子が見られる生徒もあります。土台にある自己肯定感を下げないようにするためには、早く支援につなげるのが大事だと感じています。

### 意見交換の内容から

教育相談員(SC)として、東部圏域の県立高校の支援にあたっておられる平田久子先生(高等学校課)にも助言をいただきました。



〔平田先生〕

「どう指導したらうまくいくか。」悩んでおられる高校の先生は多いです。効果的だった支援の具体例や学校とは異なる家庭での様子を伝えるなど、引継ぐ内容が大切になります。

琴の浦高等特別支援学校（特別支援教育  
渡部 真里子先生（コーディネーター）

〔渡部先生 講義資料より〕

### ④「働きたい」気持ちを育てる

#### モチベーション

- ・仕事が楽しい・趣味・いい仲間
- ・楽しみがある・褒められる・感謝される
- ・給料(報酬)・生活する・ほしい物の購入
- ・できる喜び

### ④「働きたい」気持ちを育てる

#### やりがい

- 「好き」なこと ≤ 「できる」こと
- ・充足感・達成感・爽快感...



〔渡部先生〕

琴の浦高等特別支援学校の職業学科の特徴、一般就労と福祉就労の違い、仕事内容や雇用の際の配慮等、事例やデータ等をもとに分かりやすく説明していただきました。

一般就労を目指して開校した本校ですが、働くことに興味をもてない生徒が増えていることに課題を感じています。

好きなことよりも、できることがたくさんある方が「やりがい」につながります。義務教育段階で、できることを増やし、充足感や達成感、自身の成長に喜びを感じる経験等を積み重ねていくことが、働くことへの意欲や関心を高めることにつながると思います。

### 意見交換の内容から

周りの大人が必要以上に手をかけてしまい、自立に必要な経験が不足しがちです。

理解の状況から受け身になりやすい側面があります。選択肢を設けるなどして、自分で考え行動したことを称賛することから始めてみるのもよいです。



〔伊藤先生〕

白兔養護学校(発達障がい教育拠点校)で通級指導や高校支援を担当されている伊藤真栄先生にも助言をいただきました。

特別支援教育の理念に、「自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。」とあります。長期的な視点を持ち、本人、保護者と個別の教育支援計画等で身に付けるべき力や必要な支援等を共有し、指導・支援の充実を図りましょう。